

生きる力を高め、医療福祉を創造するはばたき福祉事業団  
患者が変われば、医療は変わる

## ◆◆暑中お見舞い申し上げます◆◆

賛助会員を増やします ご協力下さい  
(社福)はばたき福祉事業団、今年も挑戦!

HIV感染症の差別・偏見解消に  
健全な医療福祉環境と、  
安全な医療を当事者視点で創造へ

はばたき福祉事業団の事業を始めて12年目、社会福祉法人になって2年になります。今年は、事業の安定化を重点に、賛助会員を増やします。賛助会員増員のため、皆様のご協力をお願い申し上げます。

社会福祉法人 はばたき福祉事業団 理事長 大平 勝美

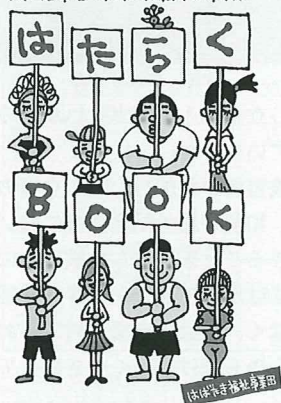
3つの助成事業を終えて

## HIV感染者の差別・偏見解消に向けて、今年度は新たな展開へ

昨年度、はばたき福祉事業団ではHIV感染者就労の偏見・差別の解消のために、就労を切り口とした助成事業を行いました。平成20年度も、2つの助成事業の実施が決まりました。

1つは独立行政法人福祉医療機構(高齢者・障害者福祉基金)の助成による「HIV感染者就労のための協働シンポジウム」です。埼玉大学教育学部准教授の関由起子氏に委員長をお願いし、今年度もスタートしました。開催日時も決定し、日時は10月27日(月)午後1時30分から、会場は東京ステーションコンファレンス5階サピアホールで行います。すでにシンポジウム委員会を2回行い、新たな展開として、HIV感染者が就職した場合のモデルケースの提示や企業への人材紹介を支援している方のシンポジウムへの参加、就業中に感染がわかった場合の行動マニュアル作成など、具体的な案が出されています。また、7月9日には、昨年に引き続き企業におけるHIV感染者の障害者雇用意向の実態を調査する「HIV感染者が安心して働ける環境づくりのための1,000社アンケート調査」を送付しました。昨年は回収率が4%にとどまり、HIV感染者の就労に関する企業の意識の低さが浮き彫りとなりましたが、今年は厚生労働大臣が就労に関して経団連や連合に働きかけを行っていただくことで、昨年とは違った結果が期待されます。

HIV感染者の就労環境向上のために



もう1つは厚生労働省の助成による「HIV感染に係る障害者の社会参加に係る偏見と差別不安解消と自立支援の在り方に関する調査研究事業」です。19年度に実施した患者対象のインタビューを通して、患者が社会との信頼関係を構築し、外部接触の機会を得るためには、医療者がカギを握る存在だということわかったことから、今年度は、エイズ治療・研究開発センター、ブロック拠点病院等の

医療者500名、患者2,000名を対象にアンケート調査を行います。また、患者が働く企業へのフォーカスグループインタビュー調査も実施します。今後の展開、進捗状況については、機関紙やホームページでお知らせしていきます。

また、昨年度実施した3つの助成事業の報告書がまとまりました。

1つは、昨年10月14日に行われたシンポジウムでの基調講演、セッションを中心にまとめた「HIV感染者就労のための協働シンポジウム報告書」です。基調講演は、安定しているHIV感染者は十分に就労できること、健康保険組合での情報管理は厳重に管理されていること、障害者の雇用は右肩上がりで増えていることなどを載せています。また、面接ではどんなことを質問するのか、給与や仕事の内容はどうかなど、就労の最前線で活躍されている方から障害者雇用の実際についての報告もあります。その他、企業1,000社アンケートや専門家委員会報告、就労のための支援センターの一覧も掲載しています。

そして、「HIV感染に係る障害者自立総合支援プログラム等研究開発事業」では、2つの冊子を発行しました。この事業では、企業、ハローワーク、地域障害者職業センターの担当者を対象にフォーカスグループインタビューを行い、その結果、ハローワークの利用者が少ないこと、企業の雇用意識が低いことなどが明らかになりました。それらをまとめたものが「企業、ハローワークへのフォーカスグループインタビュー調査 平成19年度研究報告書」です。さらに、ハローワークを上手く利用して、就労の機会を得るために、「はたらくBOOK」を作成しました。この小冊子はたいへん好評で、初版2,000部はあっという間になくなり、すぐに2,000部増刷をかけました。

これら2つの事業をWeb上でお知らせしているのが、マイクロソフト社のNPO支援プログラムによる「Habataki Wave」です。シンポジウムの様子をビデオで紹介しているので、ライブ感覚でシンポジウムを見ることができます。「Habataki Wave」には、今年度も就労のための情報を載せていきますので、ぜひアクセスしてください。

これらの報告書の在庫は事務局にありますので、ご希望の方は電話、メールにてお問い合わせください。



厚生労働大臣との定期協議から

## 大臣がHIV感染者の就労について、差別・偏見解消のために、直接経団連や連合に働きかけ

毎年1回、東京・大阪HIV訴訟原告団と厚生労働大臣との定期協議が行われています。この協議では、はばたき福祉事業団が実施している事業から見えてきた課題・問題を直接大臣に訴え、政治的解決を図る場となっています。薬害根絶「誓いの碑」や遺族被害実態調査などは、この協議の中で大臣がその意義を認めて実現したものです。今年も5月26日に舛添要一大臣との協議が厚生労働省で開催されました。

今回の協議では、5つの重点項目を掲げて、回答を求めました。そのひとつである遺族の救済では、和解の枠組みにとらわれないこと、遺児への奨学金などの金銭支援制度の創設を言及されました。差別・偏見の取り組みについては、就労について大臣が直接経団連や連合などをお願いしてくれることも言及されました。また、参議院で委員会決議された血友病等の先天性凝固異常症患者のC型肝炎救済についても検討を開始しているとの回答を得ました。今回の定期協議での舛添大臣の回答は、例年の協議と比べて積極的なものが多く、評価のできるものでした。



## 記念となる5回目のメモリアルコンサートは来年3月16日に開催！ 演奏家も決定しました

### 第4回コンサートは感動につつまれ、行われました

2月29日、第4回はばたきメモリアルコンサートが日本大学カザルスホールで行われました。当日券をお求めの方が多数詰めかけるなど、およそ300名もの方がご来場くださり、おかげさまで盛況のうちに終えることができました。ご来場くださいましたみなさま、ご協力いただきました多くの関係者のみなさまに心から御礼申し上げます。

毎回、期待の若手演奏家に出演していただいているこのコンサート。今回はハーブ奏者の津野田圭さんが演奏して下さいました。コンサートのトップを飾る演奏でしたが、緊張感を感じさせない堂々としたものでした。そして、フルート奏者の高木綾子さんとの共演。高木さんが教育実習で訪れた高校の生徒が津野田さんだったという縁のお二人は、息の合った演奏を披露して下さいました。特にすごいと聴衆をうならせた、高木さんのフルートの演奏に魅了され、アンケートもたいへん好評で、多くの聴衆の方の心に残るものでした。

そして、総合音楽監督の池辺晋一郎先生が薬害エイズ被害者への思いを込めて作曲して下さいした「やすらぎの翼」。世界初演以来この曲を演奏しているモルゴーア・クアルテットは、貫禄の演奏を披露しました。モルゴーアと同じく第1回からこのコンサートに出演しているピアニストの石岡久乃さんも、高木さんやモルゴー

アと共演し、絶賛の拍手が会場にあふれました。最後は、定番となった演奏者全員による「愛の挨拶」で締めくくられました。

今回のコンサートでは、3人の被害者遺族から寄せられた詩を朗読する「メモリー ～そのページを少しひらいて…」というコーナーがありました。迫田朋子さんの朗読と、それに合わせた池辺晋一郎先生のピアノ即興演奏は感動を呼び、涙が止まらないという方もいました。音楽を通して薬害エイズ事件を語り継いでいくという思いがご来場された方に届いたことと思います。

5年目を迎え記念となる「第5回はばたきメモリアルコンサート」の開催日は来年の3月16日(月)に決まりました。会場は協賛いただいている日本大学カザルスホールで行います。演奏者にはコントラバス奏者の吉田秀さんが決定！また、若手演奏家として、オーボエ奏者の荒恵理子さんが登場します。その他詳細については、決まり次第ホームページ等でお伝えしていきます。お楽しみに！！



## 和解12周年記念集会 開催

3月29日、歴史的な和解から12年が経過したこの日、薬害エイズ裁判和解12周年記念集会が東京・丸の内コンファレンススクエアで開催されました。はばたき福祉事業団は、この記念集会の企画運営から後片付けまでの実務的運営を担いました。

会場には被害者や行政、医療関係者など、昨年よりも多い100名近い方が出席し、会場に座りきれないほどでした。和解記念集会では、毎年被告製薬企業から献花が寄せられています。例年1～2社程度ですが、今年は5社のうち4社から寄せられました。



梶尾 雅宏室長

薬害エイズで亡くなった610名以上の被害者への黙とうの後、献花を行いました。残念ながら舛添要一厚生労働大臣が出席できなかったため、代理として厚生労働省医薬食品局総務課医薬品副作用被害対策室・梶尾雅宏室長が出席し、献花を行いました。次いで遺族の代表や来賓の方々が献花を行い、その後出

席者全員で献花を行いました。

今回の和解記念集会では、医療ジャーナリストの大熊由紀子氏に「患者の声が医療を変える」という演題で講演をしていただきました。患者の視点から日本の医療政策を見つめ直すという内容でした。また、遺族についても触れ、同じ立場の人との出会いが次の段階に進むことにつながると話されていました。

この記念集会には、全国から多くの被害者が参加し、同じ立場の人同士が語り合う場面が見られます。和解10周年記念集会において、次の10年をさらにたくましく生きることを決意した被害者にとって、この集会のもつ意味の大きさは増してきています。薬害エイズ事件を伝え続けていくだけでなく、社会の支援に対するお礼、そして被害者自身のためにも、今後も続けていくべき集会でした。



大熊 由紀子さん

平成20年度 社会福祉法人会計総括表

貸借対照表

事業活動収支計算書

資金収支計算書

(自)平成19年4月1日 (至)平成20年3月31日(単位:千円)

勘定科目	合計	社会福事業	公益事業
<b>資産の部</b>			
流動資産	57,010	28,403	28,607
固定資産	323,104	323,104	0
(基本財産)	100,000	100,000	0
(その他の固定資産)	223,104	223,104	0
資産の部合計	380,114	351,507	28,607
<b>負債の部</b>			
流動負債	5,264	5,264	0
固定負債	0	0	0
負債の部合計	5,264	5,264	0
<b>純資産(資本)の部</b>			
基本金	10,000	9,000	1,000
資本金	0	0	0
国庫補助金等特別積立金	1,085	1,085	0
その他の積立金	185,343	185,343	0
次期繰越活動収支差額	178,421	150,814	27,607
(うち当期活動収支差額)	▲22,083	▲20,022	▲2,061
純資産(資本)の部合計	374,849	346,242	28,607
負債及び純資産の部合計	380,113	351,506	28,607

勘定科目	合計	社会福事業	公益事業
事業活動収入(1)	68,021	62,608	5,413
事業活動支出(2)	90,873	83,344	7,529
事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	-22,852	-20,736	-2,116
事業活動外収入(4)	767	20,713	54
事業活動外支出(5)	0	20,000	0
事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)	767	713	54
経常収支差額(7)=(3)+(6)	-22,085	-20,023	-2,062
就労支援事業収入(8)	0	0	0
就労支援事業支出(9)	0	0	0
就労支援事業活動収支差額(10)=(8)-(9)	0	0	0
特別収入(11)	0	0	0
特別支出(12)	0	0	0
特別収支差額(13)=(11)-(12)	0	0	0
税引前当期活動収支差額(14)=(7)+(10)+(13)	-22,085	-20,023	-2,062
法人税、住民税及び事業税負担額(15)	0	0	0
当期活動収支差額(16)=(14)-(15)	-22,085	-20,023	-2,062
前期繰越活動収支差額(17)	167,901	138,232	29,669
当期末繰越活動収支差額(18)=(16)+(17)	145,816	118,209	27,607
基本金取崩額(19)	0	0	0
基本金組入額(20)	0	0	0
その他の積立金取崩額(21)	32,604	32,604	0
その他の積立金積立額(22)	0	0	0
次期繰越活動収支差額(23)=(18)+(19)-(20)+(21)-(22)	178,420	150,813	27,607

勘定科目	合計	社会福事業	公益事業
經常活動収入(1)	68,663	83,196	5,467
經常活動支出(2)	88,929	101,400	7,529
經常活動収支差額(3)=(1)-(2)	-20,266	-18,204	-2,062
就労支援事業収入(4)	0	0	0
就労支援事業支出(5)	0	0	0
就労支援事業活動収支差額(6)=(4)-(5)	0	0	0
施設整備等収入(7)	0	0	0
施設整備等支出(8)	9,724	9,724	0
施設整備等収支差額(9)=(7)-(8)	-9,724	-9,724	0
財務活動収入計(10)	32,604	32,604	0
財務活動支出計(11)	0	0	0
財務活動収支差額(12)=(10)-(11)	32,604	32,604	0
予備費(13)	0	0	0
当期資金収支差額合計(14)=(3)+(6)+(9)+(12)-(13)	2,614	4,676	-2,062
前期末支払資金残高(15)	49,132	18,463	30,669
当期末支払資金残高(14)+(15)	51,746	23,139	28,607

平成21年度 資金収支予算表

(社会福祉事業会計) (自)平成20年4月1日 (至)平成21年3月31日

勘定科目	合計	本部	身体障害者の更生相談
經常活動による収入			
經常経費補助金収入	38,586,000	0	38,586,000
寄附金収入	1,500,000	0	1,500,000
雑収入	1,200,000	200,000	1,000,000
賛助会費収入	1,000,000		1,000,000
雑収入	200,000	200,000	0
借入金利息補助金収入	0		0
受取利息配当金収入	15,000	15,000	0
会計単位間繰入金収入	0		0
経理区分間繰入金収入	21,000,000		21,000,000
經常収入計(1)	62,301,000	215,000	62,086,000
人件費支出	32,301,000	9,120,000	23,181,000
事務費支出	36,410,000	2,550,000	33,860,000
事業費支出	1,468,000	0	1,468,000
借入金利息支出	0		0
経理区分間繰入金支出	21,000,000	21,000,000	0
經常支出計(2)	91,179,000	32,670,000	58,509,000
經常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	▲28,878,000	▲32,455,000	3,577,000
施設整備等による収入			
施設整備等補助金収入	0		0
施設整備等寄附金収入	0		0
固定資産売却収入	0		0
施設整備等収入計(4)	0	0	0
固定資産取得支出	0	0	0
元入金支出	0		0
施設整備等支出計(5)	0	0	0
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	0	0
財務活動による収入			
借入金収入	0		0
投資有価証券売却収入	0		0
借入金元金償還補助金収入	0		0
積立預金取崩収入	33,000,000	33,000,000	0
その他の収入	0		0
財務収入計(7)	33,000,000	33,000,000	0
借入金元金償還金支出	0		0
投資有価証券取得支出	0		0
積立預金積立支出	0		0
その他の支出	0		0
流動資産評価減等による資金減少額等	0		0
財務支出計(8)	0	0	0
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	33,000,000	33,000,000	0
予備費(10)	2,000,000	0	2,000,000
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	2,122,000	545,000	1,577,000
前期末支払資金残高(12)	19,791,447	3,214,075	16,577,372
当期末支払資金残高(11)+(12)	21,913,447	3,759,075	18,154,372

(公益事業会計) (自)平成20年4月1日 (至)平成21年3月31日

勘定科目	合計	相談・支援事業	調査研究事業	教育啓発事業
經常活動による収入				
經常経費補助金収入	2,500,000	2,090,000	410,000	0
寄附金収入	600,000	0	0	600,000
雑収入	1,400,000	0	0	1,400,000
借入金利息補助金収入	0			0
受取利息配当金収入	0			0
会計単位間繰入金収入	0			0
経理区分間繰入金収入	0			0
經常収入計(1)	4,500,000	2,090,000	410,000	2,000,000
人件費支出	200,000	200,000	0	0
事務費支出	3,450,000	1,050,000	200,000	2,200,000
事業費支出	3,150,000	3,150,000	0	0
借入金利息支出	0			0
経理区分間繰入金支出	0			0
經常支出計(2)	6,800,000	4,400,000	200,000	2,200,000
經常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	▲2,300,000	▲2,310,000	210,000	▲200,000
施設整備等による収入				
施設整備等補助金収入	0			0
施設整備等寄附金収入	0			0
固定資産売却収入	0			0
施設整備等収入計(4)	0	0	0	0
固定資産取得支出	0			0
元入金支出	0			0
施設整備等支出計(5)	0	0	0	0
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	0	0	0
財務活動による収入				
借入金収入	0			0
投資有価証券売却収入	0			0
借入金元金償還補助金収入	0			0
積立預金取崩収入	0			0
その他の収入	0			0
財務収入計(7)	0	0	0	0
借入金元金償還金支出	0			0
投資有価証券取得支出	0			0
積立預金積立支出	0			0
その他の支出	0			0
流動資産評価減等による資金減少額等	0			0
財務支出計(8)	0	0	0	0
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	0	0	0	0
予備費(10)	0	0	0	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	▲2,300,000	▲2,310,000	210,000	▲200,000
前期末支払資金残高(12)	26,869,115	9,976,810	7,401,665	9,490,640
当期末支払資金残高(11)+(12)	24,569,115	7,666,810	7,611,665	9,290,640



## 北海道支部

### 医療講演会を開催

5月に北大病院の診療スタッフによる「血友病に対するリハビリテーション」と題した医療講演を開催しました。血友病性関節症の仕組み、人工関節置換術のメリット・デメリットについて話され、関節と筋肉を保護し運動機能の維持と改善を図る為にリハビリテーションが有効であることが説明されました。講演後には活発な質疑応答がされ、「どんな時が大変なのか」を整形の医師に伝え、それを元にリハビリ科で対応するのが良いなど、具体的なアドバイスを得て、リハビリについて理解を深める事が出来ました。

今後も、このような医療講演会を道内各地で開催したいと思います。

## 東北支部

### 地域相談会を開催します

原点に戻り地域相談会に力を入れています。地元患者さんを中心に、今月は青森県で地域相談会を開催します。日常では話す機会の少ないHIVの話題など、自由に話し合える場になっています。医療情報に限らず、参加者が近況や思いなど、自由に語り合える場として、毎年楽しみに参加されています。

また、東北支部には相談スペースを確保していますので、皆さんが気軽に立ち寄れるように、スタッフ一同の顔の見える支援体制を進めていきます。

## 中部支部

### 医療の連携をめざして

状況の厳しい被害患者もおられ、東海ブロック拠点病院である

名古屋医療センターと緊密に連携を取り、これ以上亡くなるひとが出ないように取り組みを続けています。また、HIV医療全般の問題についても取り組んでいきます。

より良いHIV医療をめざし、皆さんのご意見を取り入れていきたいと思っておりますので、医療機関を利用して何かありましたら、本部・支部までご相談ください。

## 九州支部

### 新職員を迎えて

昨年秋から、職員の退職や体調不良等が続き、支部としての活動が十分にできない状態が続いていました。皆さまにはご迷惑やご心配をおかけしまして、大変申し訳ございませんでした。7月から新規職員を迎え、徐々にではありますが活動を活性化させています。

今後とも九州支部をどうぞ宜しくお願いいたします。

『月間厚生労働』にも紹介されました

## 全国のモデルとなる HIV 検査・相談室を設置

道内初の民間のHIV検査・相談室「サークルさっぽろ」が2007年12月1日、札幌にオープンしました。

北大病院HIV総合医療整備委員会の小池隆夫委員長の強力な後押し、コーディネーターのきめ細かな協力などがあり、北大病院から医師の派遣が約束されたことで、一気に札幌市の信頼を得ることになりました。北大病院とはHIV医療体制について10年以上にわたって協議を重ねてきた歴史と信頼関係がありました。

市内繁華街の、歓楽街すすきのからも近いビル内を借りることができました。「サークルさっぽろ」という愛称で開設。室内は一方通行の循環型になっています。毎週土曜日、午後4時～7時の間に20名の検査を行い、翌週に結果をお知らせします。

採血や相談を担当する看護師は北大病院と札幌医大病院に協力をお願いしています。何年間も逡巡してようやく検査にたどり着いた人、赤ちゃんを連れのお母さん、パートナーと2人で来る人たち、高校生など様々な人がやってきますが、その大半は20～30代の人たちです。

検査時や結果説明後に相談を受ける人は、平均して毎回2割以上います。検査だけではなく相談ができることに大きな意味があると感じています。ほぼ100%の人たちが、「今回の検査は自分の感染予防行動について振り返る機会になった」と答えています。

船出は順調でしたが、継続した事業としていくためには今後も多くの困難と課題が待っていると思います。受検者の声に励まされながら、一つひとつ山を乗り越えていきたいと思っています。

## 賛助会員数 2008年7月末現在

学生	13名 (15口数)
個人	671名 (820口数)
団体	47団体 (107口数)

## ● 賛助会員募集中 ●

学生会員	年間	一口	1,000円
個人会員	年間	一口	3,000円
団体会員	年間	一口	10,000円

- ・はばたき福祉事業団の運営を安定させるために、賛助会員を募集しています。ご家族やお知り合いの方にも声をかけて頂けると幸いです。
- ・賛助会員の皆さんには、ニュースをお送りします。
- ・お申し込みは、郵便振替用紙に住所・氏名等ご記入の上、会費を添えて、郵便局からお振込み下さい。

## 【郵便振替】

口座番号：00130-4-409457  
名義：社会福祉法人 はばたき福祉事業団

※活動を進めるための大きな力となるご寄付もよろしくお願い致します。

## ■ 編集後記

今年も暑い夏になりそうですね。数日前には気温が42度まで上がったところもあったとか。地球温暖化が叫ばれるなか、エコバックを持つくらいじゃどうにもならないなあと思いつつ、「いやいや小さな積み重ねが大事」と自分に言い聞かれています。皆さんはエコな生活していますか？



社会福祉法人  
**はばたき福祉事業団**

本部	〒162-0814 東京都新宿区新小川町9番20号 新小川町ビル5F TEL 03-5228-1200 FAX 03-5227-7126
北海道支部	〒064-0805 札幌市中央区南5条西10丁目 サンハイツ南5条1005号 TEL/FAX 011-551-4439
東北支部	〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町7-14 銀杏ビル102号 TEL/FAX 022-791-9270
中部支部	〒461-0001 名古屋市中区東1-1-35 ハイエスト久屋5F 柴田・羽賀法律事務所気付 TEL/FAX 0583-89-4909
九州支部	〒810-0062 福岡市中央区荒戸3-2-5 東峰マンション第一西公園303号 TEL/FAX 092-717-6329